

ご参加ありがとうございました



そまもり

新しき柚人たちの羅針盤
第12号

平成19年12月1日

NPO法人 柚の杜学舎

〒501-3781 美濃市片知 1109-4

森づくり片知支援センター内

TEL&FAX 0575-37-2115

URL:<http://www.somanomori.or.jp/>

e-mail: info@somanomori.or.jp



長良川『森の健康診断』 in みの 実施しました！

岐阜県立森林文化アカデミー

地域林業研究会 二年 山崎 哲也

平成十九年十一月四日(日)、天気は快晴。この日美濃市内外、他県からの参加者・スタッフ総勢七五名が集い、美濃市内全域を対象にスギ・ヒノキ人工林に分け入って森林の健康状態をチェックする『森の健康診断』が行われました。

『森の健康診断』とは、愛知県豊田市を中心とする矢作川(やはぎがわ)流域において平成十七年から始まった市民参加型の森林調査です。更には言えば、森林ボランティア(矢作川流域においては主に人工林を中心に自主的に森林整備等の活動を行う人々)を中心とする市民と研究者が手を取り合い、科学的かつ誰にでもわかりやすい調査マニュアルを作り、これまで森林の現状を身近に感じていなかった一般市民を巻き込み、更には行政、森林組合や

企業など様々な立場の人々が参加し、広範囲の面積を一斉に、あくまでボランティアで(当日は参加者・スタッフ皆五百円の参加費を払って)効率を追わず、愉快な気持ちで森林の現状を明らかにしていく活動です。年一回行われ、今年で三回目。矢作川で始まった当初から各地に波及し、全国的な広がりを見せています。

この『森の健康診断』を長良川流域でも実現させたいと願う様々な立場の人々の思いが結集し、今年、上流域の入り口ともなる美濃市において実施することが出来ました。

各地に広がりつつある『森の健康診断』ですが、実施するまでの経緯は各地様々であり、この活動を良い方向に導く鍵もその地域によって異なるものだと思います。発祥の矢作川流域では一定以上の技術レベルをもった数グループの森林ボランティア団体が結集し、それとは別に研究者グループが組織され、双方が対等の立場で議論し、行政はあくまで裏方に徹し、森林組合もサポートに回るといって、理想的な協働の体制が形成されています。

今回の美濃市ではそういった下地づくりはこれからというのが現状かと思えます。しかし、本番当日はスタッフ・参加者双方の熱気が一体となり『森の健康診断』を楽しく学ぶ雰囲気自然と出来上がっていました。今回の参加者には少なからず人工林の荒廃問題に関心をもつ人から、実際に森林・林業の現場で活躍される方々も参加され、今後長良川流域で展開していく上での核となる様なポテンシャルが、この流域にもある事が確認出来たと思えます。



釣竿を使って混み具合チェック

私は『森の健康診断』を卒業課題研究のテーマとして取り組んでおり、今回実行委員長を務めさせて頂きました。杣の杜学舎の皆様には全面的なサポートを、全て普段の業務外でご尽力頂き、机上では学べない多くの示唆に富んだアドバイスを頂きました。また、矢作川からも応援に駆けつけて頂き、当日のリーダー役として参加者への理解を深めて頂きました。その他、多くの方々のご協力を得て、長良川『森の健康診断』inみのくを実施出来た事を、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。今回の結果は報告書にまとめ、近く報告会を開催したいと考えております。そこではいくつかの今後に繋がる課題を挙げ参加者の方々と一緒に考える座談会形式の様なものになればと考えておりますので、今後とも美濃の森林、長良川流域の森林に関心をもち続けて頂ければ幸いです。

私が1年半学んだアカデミーがある美濃市と長良川流域に住む人々への恩返しとなるよう、卒業までの時間をじっくりかけて成果を仕上げたいと思います。有難う御座いました。

職場体験（インターシップ）を通して



岐阜県立森林文化アカデミー
地域林業研究会 一年 山崎 一広

私は美濃市にある岐阜県立森林文化アカデミーで、今年の四月から林業について学び始めた、地域林業研究会所属の山崎一広と申します。八月十六日から二十二日までの一週間、杣の杜学舎にインターシップ生としてお世話になる機会を得ることが出来ました。まずは何故、この杣の杜学舎にインターシップ生として参加させて頂いたかの理由も踏まえ、簡単な自己紹介をしたいと思います。

私は京都市出身で、山村出身者であるとか、山林を保有する家に生まれたとか、という訳ではありません。いわば杣の杜学舎のスタッフの方々に近い立場ということが出来るかと思えます。そんな中、「林業を通して、山村地域と関わり、自然と向い合える機会を得たい。」と思うようになりました。現在林業は「人工林の管理放棄の拡大」「林業の後継者不足」「木材価格の低迷」など、逆風が吹いているとの様々な情報が流れています。「その現状を、自分の目で確かめてみたいと思ったこと。」「また「古いものや新しいものを含め様々な角度から林業技術を経験し習得したいを思ったこと。」「など、これから先「自分が林業と如何に関わっていくのが良いのか？」を

見つけるきっかけを得るために森林文化アカデミーに入学しました。

アカデミーの原島先生のご紹介などもあり、杣の杜学舎の職場体験をする機会を与えていただいた訳ですが、「NPOの事業体としての取り組みを知ること。」「今の地域の森林整備の状況を実感すること。」「私と同じように地元の出身者でない方々が如何に事業を展開しているのかを見ること。」「などが私の個人的な目的でした。

この一週間で、杣の杜学舎の取り組みの概要や会計、これまでに行った事業地の見学、補助金事業に対応した間伐事業地の測量・プロット調査、景観整備地の作業体験など、いろいろと初めての体験をさせて頂きました。私は林業のことをあまり知らず、林業を学び始めて、まだ間がありませんので、今回の職場体験で感じたことをすなおに述べてみたいと思います。

今現在、市民活動や様々な事業がNPOを主体として行われていることを皆さんもお気づきの事だと思えます。非営利活動というボランティア活動のことを思い浮かべますし、逆に何かの事業を行う主体としては、普通の会社組織のことを考えます。そこで、「なぜNPOを運営しているのか?」「NPOを組織することによって何が変わるのか?」を杣の杜学舎代表の鈴木さんにお聞きしたところ、NPO組織であることによって「行政の政策や活動に対して、提言や発言を行う機会を得やすく、またその提言を実際に事業として成立させることを可能にするメリットがある。」ということでした。

また、人工林が管理放棄されている現状と、その

整備の実態についても興味のあるところでした。今回はスタッフの一人である小泉さんと共に、過去に行った間伐事業地に案内して頂きました。実際に間伐後の事業地を見ると、林内が明るくとてもスッキリしているのがわかりました。

そのスッキリした林を見ていて、ふと気づいたことがあります。それは、間伐された林の隣に、突然うっそうとした光の入っていない人工林が目に入ったことです。話を聞いてみると、その先から森林所有者が変わっているということでした。つまり、「この林地は間伐事業を行う同意が得られておらず、間伐の作業がストップしている。」ということでした。

山の境界というと、ある程度地形等で区分され、ある程度まとまっているものだ、と考えていましたが、しかし実際はとても細分化されていて、同一所有者の土地が分散して存在したり（飛び地のようなもの）、同一の斜面でも短冊状に分割されていたりするようです。その結果、植林された時期が近く、似たような林分でも、林の手入れの状況によって、まったく異なった状況に陥っているのです。森林所有者の意識の差が全体的な山の整備や管理を妨げているという現実を垣間見ることが出来ました。

私は、インターン者として、地元でいかに仕事をこなしていくかにも、大変興味がありました。杣の杜学舎では、林業の他に、地域の人々に活動の内容や名前を覚えてもらうための方法として地域の山林の景観整備を行うことに力を入れてくれました。私も実際にその作業に参加させてもらったのですが、林業の技術を生かして、その他の業務を行うことが出来る、という可能性を感じることが出来ました。

一週間のインターンシップを終えて感じることは、実際の杣の杜学舎の活動を通して、自分中での問題意識を深め、これからどのように林業と向き合っていくかを明確にするヒントを得ることが出来たと思っています。

最後に、一週間の研修期間を大変充実したものにしてくださいました鈴木さん、山中さん、小泉さん、栃川さん、大変お世話になりました。今回このような機会を与えて頂いたことをとても感謝しています。これからもいろいろとご相談に乗ってもらうこともあるかと思いますが、その時はまたよろしく願います。

片知川レポート③

夢中になれる時と場をもてる幸せ

夏休みに入つてまもない頃でした、管理釣場上流から入深し千畳岩を経て、出会った風景です。水遊びにはまだ肌寒い時期だが、数年来の行事だと話す父親と、大きい魚が取れたよと得意げに見せてくれた子供達の網には15cm程のドンコ？が2匹入っていました。一旦あがつて道に向かうと草と低木が覆いかぶさっているはずの通路が見事に刈り払われている事に気付きました。それはナタあるいは鎌でたつた今切られ、しかも両脇に整理されている、スポットを定め幾度も通っている先程の家族ならではの所業だなど思いつつ、上流での第2ラウンドに向かった私には魚に出会うことのない1日となりました。

おりしも片

知深谷の調査

事業でお盆に

来訪者にアン

ケートをとり、

お気に入りの

場所と楽しみ

方を知っている

リピーターが

多い印象を受

けました。注

目すべきはトイ

しさえ必要な

いとする女性

もいた程の現

況保持の意見が多い、40年来のファンを筆頭に昔は良かったという声も少なからずありました。

ときに環境あるいは自然保護を口にする「よき理解者」は、同行したLSAの河合さん曰く「それもエゴを含んでいる、調査中に川への入口や見所の質問を受けたこともあり案内板の整備ひとつとっても考慮の余地はあると思います。

リピーターといえば片知川の釣りで出会ったことがないことに気付きました。昔はよく来たという人は数人いましたが、2シーズン目の片知詣でも昨年の半分の釣行で終わり、箱根がねで淵の底を夢中で探っている写真の父親の姿が羨ましく思える今日この頃です。



魅惑の自家製果実酒

二号続けて、このコラムの内容が地球温暖化等、へビーなテーマでしたので、今回はもつと身近で、おいしい(?)話題を取り上げたいと思います。この号が皆さんのお手元に届く頃には、秋は終わり、冬に入っているので、話としては、旬を過ぎてしまっていますが、その点は「容赦下さい」。

秋といえば、「食」に関するだけでも、「食欲の秋」、「収穫の秋」、「実りの秋」と形容の仕方も多いですよ。森の中もまさに「実りの秋」。クリ、ドングリ、キノコ、木の実と、様々な「実り」が起ります。この秋、その「実り」を利用して、僕はかねてから作ってみたいと思っていた、タイトルにある果実酒を作りました。今回、材料にしたのは、ガズミとナツハゼです。

ガズミはスイカズラ科の落葉低木で、北海道から九州まで暖温帯に普通に見られる木です。縄文時代には実を集めて、自然発酵させ、酒を作っていたとみられています。天然色素シアニン色素を含む為、着色料にも利用されました。この色素は血行を良くし、視力向上にも役立つそうです。また、クエン酸も多く含む為、疲労回復効果もあるようです。機能性成分については、十分解明されてはいないようですが、有効成分が多いと考えられています。ナ

ツハゼはツツジ科の落葉低木で、同じく、北海道から九州まで暖温帯に広く分布します。ブルーベリーと同じく、アントシアニンを多く含み、和製ブルーベリーとも呼ばれています。よって、疲れ目改善と肝臓機能の向上効果があるそうです。また、カルシウム、各種ビタミン類、クエン酸も多く含まれ、体への効用は高そうです。

思い返すと、僕が、初めて自家製果実酒に出会ったのは森林文化アカデミーの1年の秋、所属していた研究室の担当教官の信州にある家へ合宿に行った際、飲ませてもらったマツブサの果実酒であった様に思います。それは素人の僕にも分かる程によく漬かつており、呑みやすい口当りの中に深いコクと程よい酸味が渾然一体となって、味わい深いものでした。ついつい、また一杯、また一杯とグラスが進んでしまいました。その後、研究室の同級生もアカデミー敷地



左がガズミ、右がナツハゼ。
漬けて、3週間経ったものです。

内や演習林でカリン、ヤマボウシ等の木の実を採ってきて、果実酒を作っていました。こちらは味わう機会を逸しました。今思えば、大変惜しいことをしましたねえ。それから、おとしの秋、郡上八幡の知り合いの所で、「里山バー」なる宴が催されました。これは仲間内で自家製果実酒を持ち寄り、味わおうというもので、サルナシ、マタタビ等、10種類ぐらいの果実酒が登場しました。お酒好きの僕は当然のごとく(?)全て味わってしまった。それぞれ、良い漬かり具合で、うまかったですねえ。この時に自分の中でそのうち果実酒を作ってみたいという欲望がむくむくと湧いてきたのです。

実を言つと、この秋、5年前に岐阜市と各務原市の境で起きた山火事跡地で育樹ボランティアイベントがありました。その時、ガズミとナツハゼの実が生っているのを見つけ、これは果実酒を作る絶好の機会だと思い、最速収穫して、ホワイトリカーに氷砂糖と共に漬けました。漬けたのは十月上旬でしたが、2、3日もすると、ホワイトリカーが、ガズミは透き通る赤、ナツハゼは濃い紫(まるで赤ワイン)に色付き始めました。このコラムを書いているのは十一月月上旬ですが、呑むにはまだ2か月は待たねばならないようです。(ガズミは実を除いてさらに3か月待った方が良いとか。そんなに待てるかなあ。)うまくできているかは分かりませんが、年明けが楽しみです。

※文中、木の実の効用等は「山の幸利用百科」(大沢明著(社)農山漁村文化協会出版)を参考。

【活動報告】2007年（春・秋）

●間伐事業

十月十一日（木）、美濃市新部公民館にて間伐説明会を開催しました。当日は、保木脇・口野々・樋ヶ洞地区の二十一名の森林所有に出席頂きました。杉の杜学舎より間伐の必要性についてスライド写真を使って説明をし、中濃森林組合からは補助金制度の説明が行われました。

現在、この説明会に参加された所有者を中心に間伐現場のとりまとめと現地の境界確認作業を行っており、同地区を今年度末から次年度の重点間伐地区として取り組んでいく予定です。



11月11日 間伐説明会

●景観整備事業

《小倉山》

小倉公園展望台から北側の斜面の整理伐採と歩道整備を実施しました。このあたりはヒノキの原木も多く、勇壮な雰囲気があります。下層の植生を整理し、藪化して通行不能であった歩道を再生しましたので散歩してみてください。

《以安寺山》

今年度は、歩道の木柵工と急勾配箇所階段を施工しました。また、ヒノキの修景枝打ちも実施しました。枝打ち後のヒノキ林は、手入れの行き届いたヒノキ林の美しさを取り戻しました。



小倉公園（藪化した下層植生を整理）



木柵工事中の以安寺山の歩道

●長良川「森の健康診断」inみの実施

〈十一月五日（日）〉

長良川「森の健康診断」実行委員会のメンバーとして、イベントの運営を行いました。杉の杜学舎のスタッフはイベントのチームリーダー、道案内役として活躍しました。（※詳細は、巻頭記事を参照）

●みの森林塾

《第一回》六月二日（土）

大矢田神社に出かけて、自然観察と樹木分類をしました。



この木は何だ？



様になってるでしょ。



チルホールです

《第二回》六月十六日（土）

以安寺山で鉋、鋸の取り扱い方法、及びチェーンソーの取り扱いの講習を実施しました。

《第三回》七月二十八日（土）

地域の人工林の「森の健康診断」を実施しました。

森の健康診断をします。



診断結果は？要間伐



《第四回》九月十五日（土）

前回の健康診断の結果をもとに、間伐を実施しました。

《第五回》十月二十日(土)
 以安寺山で、1本の木を伐つて、運んで、製材して、ベンチを作るといふ工程を一日で体験しました。



ベンチができた。



ひばりだこというウインチです



木を伐って丸太に



目立ては大事。ベンチで目立て



ログソールという製材機で丸太を板に



丸太を運ぶ

平成19年度定期総会報告

6月2日(土)に、平成19年度定期総会が開催され、平成18年度の会計報告と平成19年度の事業計画が報告されました。特に間伐推進事業においては、間伐説明会の開催など森林所有者へ呼びかけを行い、間伐の推進をはかること。また、美濃市の以安寺山や小倉公園、片知深谷ふくべの森といった地域の森林景観整備に取り組む他、「みの森林塾」の講師として地域ボランティアの育成をサポートすることが報告されました。(鈴木 章)

杉の杜学舎 収支決算報告書(平成16年度～平成18年度)

| 科目・概要 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|--------------------|--|--|--|
| | 金額 | 金額 | 金額 |
| I 経常収入の部 | | | |
| 1 会費・入金収入 | 95,000 | 106,000 | 119,000 |
| 2 事業収入 | 8,898,559 | 8,854,222 | 12,891,100 |
| 3 補助金・助成金収入 | | | 300,000 |
| 4 寄付金収入 | 22,000 | 453,000 | 210,000 |
| 5 その他収入 | 16,575 | 13,810 | 55,556 |
| 当期経常収入合計 | 9,032,134 | 9,427,032 | 13,575,656 |
| II 経常支出の部 | | | |
| 1 事業費 | 7,209,994 | 6,425,899 | 9,354,088 |
| 2 管理費 | 1,669,227 | 2,563,965 | 3,397,348 |
| 当期経常支出合計 | 8,879,221 | 8,989,864 | 12,751,436 |
| 当期経常収支差額 | 152,913 | 437,168 | 824,220 |
| III 当期経常外収入 | 650,000 | 1,250,000 | 3,880,000 |
| IV 当期経常外支出 | 650,000 | 2,079,500 | 1,674,251 |
| 当期経常外収支差額 | 0 | -829,500 | 2,205,749 |
| 当期収支差額 | 152,913 | -392,332 | 3,029,969 |
| 前期繰越収支差額 | 1,028,282 | 1,181,195 | 788,863 |
| 次期繰越収支差額 | 1,181,195 | 788,863 | 3,818,832 |
| 主な事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・間伐事業 ・森林資源モニタリング調査事業 ・環境学習ワークショップ事業 ・美濃市森林景観整備実態調査事業 | <ul style="list-style-type: none"> 間伐事業 以安寺山森林景観形成工事 小倉公園森林景観整備事業 山火事跡地のメンテナンス業務 | <ul style="list-style-type: none"> 間伐事業 以安寺山森林景観形成工事 小倉公園遊歩道整備 保安林整備事業測量業務 |